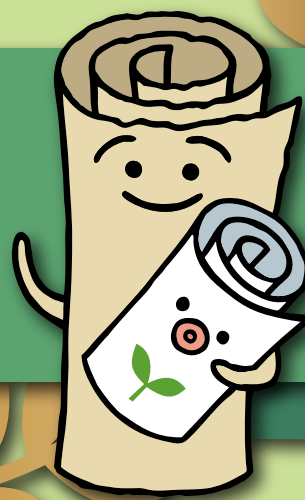


“紙リサイクル”
全国小中学生
コンテスト2017

金賞・特別金賞
受賞作品 作品集
入賞者一覧



主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、
全国市町村教育委員会連合会、全国小中学校環境教育研究会、
読売新聞社、全国製紙原料商工組合連合会、
日本再生資源事業協同組合連合会、段ボールリサイクル協議会、
日本製紙連合会

協力

教育新聞社

入賞者一覧

応募総数：973 点
(応募校数：124 校)

金賞

	部門	都道府県	学校名等	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	5	越村 惟叶	リサイクルは大切
	中学生部門	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	1	大仁田 健	リサイクルスペース
ポスター	小学生低学年部門	北海道	札幌市立山鼻小学校	3	大井 佑馬	「生まれ変わろう！紙」
	小学生高学年部門	兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	斉藤 亜衣香	紙のリサイクル
	中学生部門	静岡県	浜松市立南部中学校	1	金城 カロリナ	よく見れば資源はいっぱい

特別金賞

	部門	都道府県	学校名等	学年	氏名	タイトル
	全国製紙原料商工組合 連合会 理事長賞	東京都	国語塾 KURU	6	山田 隼	紙でできた家（作文）
	日本再生資源事業協同 組合連合会 会長賞	岩手県	岩手県立一関第一 高等学校附属中学校	2	小澤 美咲	江戸の知恵に学ぶ（作文）
	段ボールリサイクル 協議会 会長賞	青森県	八戸市立小中野小学校	6	目時 聖那	く～るくる！！地球のために リサイクル！！（ポスター）

銀賞

	部門	都道府県	学校名等	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	香川県	高松市立栗林小学校	2	上之段 亜玖吏	みんなの力でがんばろう
	中学生部門	東京都	江戸川区立篠崎中学校	2	檀上 恋	これからの紙リサイクル
ポスター	小学生低学年部門	佐賀県	有田町立有田中部小学校	1	鷹巣 きよら	「かみリサイクルしてくれてありがとう」 へんしんできたよ
	小学生高学年部門	山口県	岩国市立灘小学校	4	古賀 万結	リサイクルを心がけよう
	中学生部門	静岡県	浜松市立南部中学校	3	島田 愛	捨てずに活かす紙リサイクル

佳作

	部門	都道府県	学校名等	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	福島県	福島市立福島第三小学校	6	遠藤 萌花	再生紙文房具自動販売機を作ろう
		東京都	東京創価小学校	5	大泉 陽子	新しいリサイクル
	中学生部門	京都府	京都市立伏見中学校	2	山田 創太	「紙リサイクル・ルールを日本統一！！」
		広島県	銀河学院中学校	1	上川 楽々	「混ぜればゴミ、分ければ資源」
ポスター	小学生低学年部門	鹿児島県	霧島市立陵南小学校	3	中川 香花	紙たちにかんしゃをこめてリサイクル
		徳島県	阿波市立一条小学校	1	西岡 成	すてずにリサイクル
	小学生高学年部門	兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	津田 和花奈	紙は大切に
		兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	鳥前 晴海	よんだ後はリサイクル
	中学生部門	山口県	岩国市立灘中学校	2	松富 穂香	地球の命のために…
		山口県	岩国市立灘中学校	2	藤田 珠羽	木からの大切なプレゼント

金賞

荒川区立第三日暮里小学校 5年

越村 惟叶

リサイクルは大切

わたしは、紙リサイクルの事について調べました。紙は、昔から暮らしに欠かせない物です。ふだん家で使っている紙、実は大昔に中国で発明された物です。使い終わった物、古紙は、大切な資源なのです。使い終わった紙は、分けずに捨てられるとゴミになってしまふけれどリサイクルすれば資源になります。新しい紙を作る原料になって、ゴミもへらせるとしてもエコな取り組みです。だから、「紙を使ったら後は、リサイクルをする」という事を心がけることが大切です。

わたしは、二つ気づいた事があります。一つ目は、よく出るゴミは生ごみ、木材、ビン、カンだと思っていました。しかし、調べてみるとそうではなく、古紙だったのです。日本で使われている紙の原料は約60%以上が古紙だそうです。二つ目に気づいた事は、「リサイクルのために、みんなの家からも古紙を集めている」という事です。古紙回収車という車がみんなの家から古紙を集めて回っています。回しゅうされている古紙は約80%以上もあり、そんな風にみんなが協力しているから、新しい紙を作る事が出来るという事がわたしはとても工夫されているなと思いました。

ちゃんと分別、それがリサイクルにつながります。紙のリサイクルは、とってもデリケートで、ビン、リサイクル以外の物がまざってしまうと、リサイク

ルができなくなるのできちんと分別するひつようがあるのです。

しかし、レシートや写真のようにリサイクル出来ない紙もあります。

集められた古紙は、種類によってリサイクルされる紙がちがいます。だから、ちゃんとリサイクルするためには分別しておくことが大切です。きちんと新聞の古紙からは、主に新聞、ダンボールの古紙からはダンボール、牛乳パックの古紙からは主にトイレットペーパーが作られています。紙は木材から取り出されたせいを重ね合わせて作られたものです。それをほぐしてキレイに洗えば何度も紙の原料として使えるのです。くり返し使われるとせんいはたんです。ですが、約五回もリサイクルできるのです。

わたしがようち園のときは、おもちゃの箱やおかしの箱、空き箱などを捨てないでようち園に持って行ってみんなが工作などで遊ぶ時などに使っていました。

だから紙は昔からみんなの役にたっています。むやみに紙をリサイクルしないでゴミとして捨てたりするとよけいゴミがたくさん出てしまいます。だからリサイクルする事がとても大切だということが分かりました。

わたしは、これからもリサイクルができるように分別を心がけます。

作文中学生部門

金賞

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 1年

大仁田 健

リサイクルスペース

紙リサイクルについて、買い方、使い方、捨て方、この三つを考えてみた。まずは、買い方だが、本当に必要なかどうかを判断し、品質も特別な場合以外はなるべく古紙を利用したものを買うことにしている。また、使い方が、無駄のないように節約して使おうと努力しているつもりだ。最後に捨て方だが、たぶん、これが一番の問題となっているはずだ。多くの周りの人たちが、とくに小林市は、ごみの捨て方が細かくて難しいと悩んでいる人が多いと聞いている。小林市からは、四十五ページもある『ゴミ分別、虎の巻』が各家庭に配布されている。中身を見ると、写真付きで丁寧に書かれているが、正直、見れば見るほど心が重くなるのを感じる。きつと高齢者や小さな子どもたちを抱えている人、また、他の地域から転入してきた人にとっては、かなりのストレスであろう。ぼくが住んでいる地区では、紙リサイクルは週一回、段ボールなどは月一回で、それも朝の七時半までには出さなくてはいけないことになっている。前の晩に出すことは禁じられているので、もし出しそびれると次の月まで待たないといけないのだ。おまけに、一個でも間違ったゴミが入っていると、ルール違反のシールが貼られ回収されず、ゴミ置き場にボツンと残されてしまう。ぼくが思うに、ゴミを捨てる時間と場所、そして、ゴミ分別の複雑さが問題なのである。いつでも捨てられて、かつ、

捨てに行きやすい、雨をしのげて、駐車場もあるような場所だと有り難い。もちろん、衛生的なゴミ箱が設置されていて、リサイクル品のみではなく、捨てる時に迷わないように、全ての物にゴミ廃棄用マークがついていて、そのマークのゴミ箱に捨てるようになっていて、そんな工夫がされていれば、誰でも、たぶん子どもたちや外国人でも簡単に捨てることができるであろう。最近、二十四時間、何でも購入できるのに、捨てられるのは早朝のみというのはおかしいと思う。ゴミ捨てのストレスから解放されると、紙リサイクルは、今よりももっと高品質になる上に、回収率もアップし、かかる費用も低減すると思う。

では、そんな場所をどこに作るかということである。近頃は、廃校や使用されていない建物などをリメイクしたレストランやホテルなどを見かけるが、そんな風に、明るい開放感のあるリサイクルスペースとしてリメイクしてみてもどうだろう。広ければリサイクルショップやキッズ文庫なども併設し、廃品を利用してリデュースできるものは販売やレンタルすることもできるだろう。

例えば、天気の良い日に、家族みんなで楽しくリサイクル活動をしたくなる、そんなリサイクルスペースを提案したい。

ポスター小学生低学年部門

金賞

札幌市立山鼻小学校

3年

大井 佑馬

「生まれ変わろう！紙」



ポスター小学生高学年部門

金賞

絵画教室
絵かきのたまご

4年

斉藤 亜衣香

紙のリサイクル

受賞するとは思ってもいなかったので、とてもびっくりしました。この絵は通っている絵画教室の先生にアドバイスをもらい、猫の番人を通して、紙リサイクルの大切さが伝わればいいな、と思い描きました。



ポスター中学生部門

金賞

浜松市立南部中学校

1 年

金城 カロリナ

よく見れば
資源はいっぱい

学校の資源物回収であつまってくる紙をみて
いると、資源になる紙はたさくさんあるんだ
な、と思いました。



段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

八戸市立小中野小学校

6 年

目時 聖那

く～るくる!! 地球の
ためにリサイクル!!

地球もリサイクルもくるくる回っているところ
が同じだと思いました。

自分が取り組んでいる小さなリサイクルでも
地球のためになると思っかきました。



特別
金賞

国語塾 KURU 6年
山田 隼
紙でできた家

ぼくの家の近くのごみ収集日はびん、カン、ペットボトル類は水曜日、紙・布類は木曜日です。木曜日の日にはダンボールが白いひもで結ばれて、置かれています。新聞も四つ折りにして白いひもで結ばれて置かれています。

平成26年度、新聞紙は1849370kgで24年とくらべて大幅に減っているのに段ボールは年々増加しています。通信販売が多くなったことが1つの原因です。24年から25年にかけて増えている傾向にありますが26年には少なくなっています。新聞と雑誌が減っている理由としてあげられるのは活字はなれです。近頃スマートフォンで自分が必要とするニュースだけを見ることが可能になったので新聞や雑誌で情報を得る必要がないと考える人が増えていると考えられます。

谷川俊太郎の詩に

私たちは捨てるはがして捨てるめくって捨てる
ていねいに折り畳んで捨てる丸めて捨てる

その行方も知らずに

木々が身を粉にして恵んでくれた紙

というのがあります。紙は木々が自分をぎせいになっ

てぼくたちの元にやってきてくれているのです。ぼくはダンボールを木のように使える方法をさがしました。その結果良い案が出ました。それはダンボールを粉末にしてブロックにします。ブロックにする時は米のりを使って固めます。ブロックを積んでいくさいには、にかわで接着します。コンクリートブロックだと鉄柱を使いますが、そのかわりに竹を中に入れます。地震があつた時は竹なのでしなっていてひがいは最小ですみます。また水に弱いのが悪い点ですが、番傘にぬる油をふきつければ水にも強くなります。ダンボールブロックは輸送などにも便利です。鉄やコンクリートだと、クレーンをいちいち持ってこなくてはなりませんが、木だと人の手で組み立てもできるので洪水や地震のひがいの地設住宅にとってもよい材料です。

もしこのような家が立つことができるのなら、これは木々が自分をぎせいにしてくれてまでぼくたちのところへやってきてくれた木々への恩返しです。「紙でできた家」を作ることがぼくの紙リサイクルです。

特別
金賞

岩手県立一関第一高等学校附属中学校 2年

小澤 美咲

江戸の知恵に学ぶ

おもしろい本を読んだ。『大江戸リサイクル事情』（石川英輔／一九九七年／講談社文庫）という書籍だ。江戸時代の日本では、紙くずが町の中に落ちていたら、すぐに拾って売る紙くず拾いという職業があるほど、紙リサイクルを積極的にやっていたという。なぜ江戸時代はそんなにも紙リサイクルに積極的だったのだろうか。

江戸時代は、あらゆる物が貴重で、高価だった。それにひきかえ今は何でも欲しい物はすぐに手に入る。大量生産と物流の発展により、生活に必要なものも、さほど必要のないものも私たちの身のまわりにあふれている。これが今の時代だ。私たちは、物を大切にしようとする気持ちがうすれてしまっているのではないだろうか。例えばブランド品のバックは、いつまでもずっと大切に使うが、安いバックは流行のものをどんどん買い換えて、使い捨てにしているのではないか。

私の学校では、紙リサイクルを徹底して行っている。燃えるごみの中にプリントや小さなふせんが少しでも入っていると、校務技能員さんに注意されるほど厳しい。しかし、そのいらなくなった紙は、トレットペーパーに交換されていることを先生から聞いて、リサイクルすることの大切さを改めて感じた。家では、紙ごみと燃えるごみを分別していないので、心がけて今日から生活していきたい。

このように、紙リサイクルは誰もが心がけて取り組むことができ、すぐに実践できる簡単なことだと思う。ちり紙、コピー用紙、印刷用紙など紙リサイクルをすることで新しく生まれ変わる製品が、私の身の周りにたくさんあることを知った。紙以外の分野でも古紙は利用され、生活に欠かせない物の多くが再生利用で作られている。紙リサイクルをすることで、資源を大切に使うことができることを知った。

道ばたに落ちていた紙まで専門業者が回収していた江戸時代からの伝統があるからこそ現在新聞や段ボールの古紙を回収するシステムができあがっている。今まで私はなぜ紙リサイクルという仕組みがあるのかわからなかったが、昔から先達が築き上げたシステムを知ったことでわかった気がする。江戸時代よりも紙リサイクルが活発な世の中になってほしい。

しかし、江戸時代から四百年以上たった今江戸時代のような紙リサイクルの方法はできないと思う。だから、江戸時代とは違った方法で紙リサイクルを行えると思う。いらなくなった絵本の表紙を使ったバックを作ったりお菓子屋さんの包装紙をブックカバーにすれば、紙リサイクルに興味をもってくれると思う。また、今は高いものは大切に使うが、安いものはむだ使いしてしまいがちだ。たくさんの人に紙を大切にすることが大切だ。たくさんの人に紙の価格を上げるのも一考ではないか。